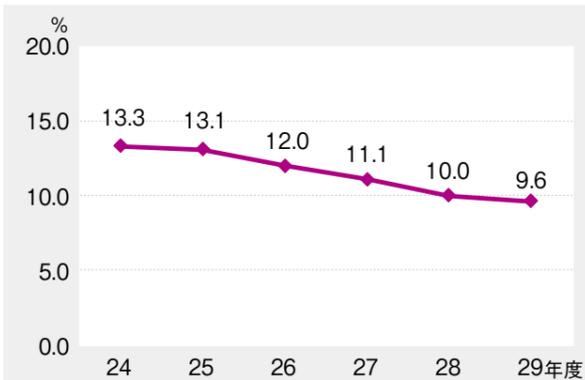


## 健全化判断比率の推移

実質公債費比率



### 実質公債費比率とは

地方公共団体の借入金（地方債）の返済（公債費）の大きさをその自治体の財政規模に対する割合で表したものです。

### 府中市は

実質公債費比率は早期健全化基準（25%）を大きく下回って推移し、比率も順調に減少しています。

将来負担比率



### 将来負担比率とは

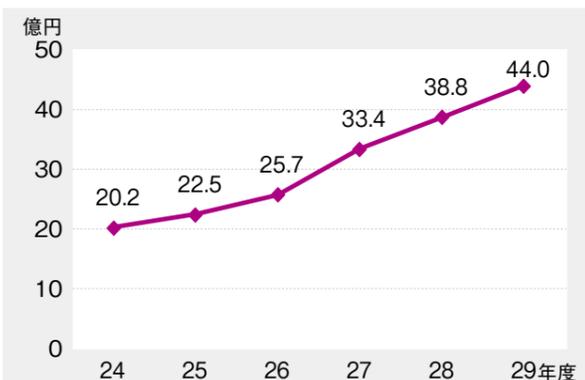
地方公共団体の借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを、その自治体の財政規模に対する割合で表したものです。

### 府中市は

将来負担比率も早期健全化基準（350%）を大きく下回って推移し、比率も順調に減少しています。

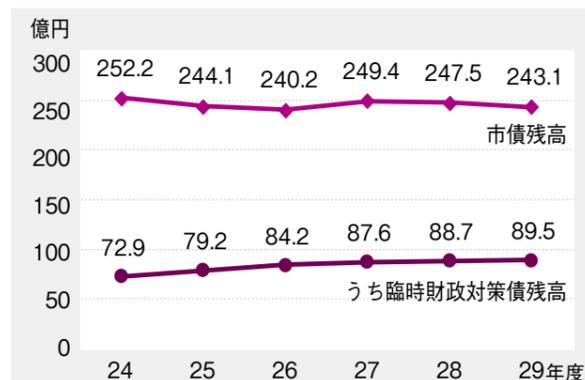
## 基金残高（貯金）および市債残高（借金）の推移

基金残高



市の貯金である普通会計の基金残高は5年前と比較しておよそ2倍に増加しました。この貯金は今後の財政運営に活用していきます。

市債残高



市の借金である普通会計の市債残高はほぼ横ばいで推移していますが、そのうち後年度に財政措置のある臨時財政対策債が増加していることから、実質的な市の借金は減少しています。

# 健全化判断比率から見る府中市の財政

## 現状

### 財政は健全です。しかし、注意が必要です。

府中市の財政状況を判断する「健全化判断比率」は良好な状態です。しかし、福祉や医療にかかる費用の割合が高いことから、財政の硬直化を示す「経常収支比率」は高く推移しており、自由に使えるお金が少ない状態を表しています。

健全化判断比率の4つの財政指標

指標名	府中市	早期健全化基準
実質赤字比率 一般会計などの実質赤字の比率	- (黒字)	13.09%
連結実質赤字比率 全会計の実質赤字の比率	- (黒字)	18.09%
実質公債費比率 一般会計などが負担する公債費などの比率	9.6%	25.0%
将来負担比率 地方債残高などの一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の比率	72.2%	350.0%

**健全化判断比率・基金残高・市債残高の状況**  
健全化判断比率とは、地方公共団体の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するためのものとして、毎年の公表が義務付けられた4つの財政指標のことです。この健全化判断比率の4つの財政指標のうち、1つでも早期健全化基準を上回った場合は、その程度に応じた対応が必要となります。

**平成29年度の数値は全ての基準をクリアしています**  
公営企業会計である水道事業会計、病院事業会計、下水道事業特別会計の資金不足比率についても公表が義務付けられていますが、全ての事業において資金不足はありません。また、財政健全化計画または財政再生計画を策定し、財政の健全化を図る必要があります。

### 経常収支比率：94.0% 前年度93.9%

人件費や扶助費、借金の返済金などの義務的な支出が市税などの定期的な収入に占める割合比率が高いほど硬直化しています。

## 将来

### 収入は減少が見込まれ、支出は増加が見込まれます。

少子高齢化や人口減少が進む中で、地方交付税の減少をはじめとする収入は減少が見込まれています。一方で、公共施設の老朽化に伴う維持管理費や建て替え費用の増加などに伴い、支出では増加が見込まれています。

## 取り組み

### 収入や支出を見直すことにより引き続き財政の健全化に取り組みます。

#### めりはりのある財政運営

子育てや産業・観光などの分野に重点的に予算を配分しながら、各事業を効率的・効果的に実施します。

#### 市債と基金の適正管理

市債の発行額を抑制しつつ、今年7月の豪雨災害対応のような緊急的な支出にも対応できる財政基盤を確保するため、基金を適正管理します。